

# 受けましょう！ 大腸がん検診

陽性⇒精密検査 必ず受けてください。



1

**大腸がんが見つかったら、  
病状に応じた治療法があります。  
医師との相談が大事です。**

治療法はとて進みました。がんの進行度(悪化の度合い)に応じて、内視鏡治療をはじめ、様々な治療法を選べます。一般的に、早期に発見できれば、治療は軽く、入院も短く、働いている人では職場復帰も早くなります。治療費負担も軽減できます。逆にがんが進行すると、これらの負担が大きくなり、命にかかわることもあります。

2

**便潜血検査が陽性だったら、  
必ず精密検査を受けてください。**

便潜血検査で陽性になった原因は何なのか。それを知るには、精密検査が欠かせません。便潜血検査には限界があり、いつも早期発見できるとは限りません。でも「要精検」なのに精密検査を受けなかった場合、大腸がんが死亡する割合が高まります。「あの時」に精密検査を受けていたら・・・こんな後悔はしないでください。

3

**精密検査は大腸内視鏡検査が  
一般的です。  
大腸CT検査も注目されています。**

検診でひっかかったら、それは早期発見のチャンスです。次のステップとして精密検査を受けてください。精密検査では、注意してほしいことがあります。再び便潜血検査をするのはいけません。便潜血2日法(2回採便)で1回でもひっかかったら精密検査を受けてください。

治療には医学的な面だけでなく、ご自身の仕事や家族のこと、人生観もかわります。「先生の指示や意見に従おう」と思っている、「本当にそれでいいのだろうか?」と悩む時もあるでしょう。迷った時は主治医に遠慮なく相談することが重要です。セカンドオピニオンという、他の先生にも相談してみる手もあります。



「大腸がんで命を失う人が多いのはとても残念」と、専門医は口をそろえます。

一般的に大腸がんは、進行が遅いうえ、早期発見の方法があり、治療法も進んでいるからです。

ごく初期とか早期で見つかり、切除できる場合は、内視鏡治療や手術が選択されます。

進行期だと切除が難しい場合も少なくないので、

抗がん剤などの薬物療法などが検討されます。

早期で見つけて切除する——これが基本となります。

**Q 1: やっぱり気になるのは、治療成績なんだけれど、大腸がんって、治るの?**

**A 1:** 見つかった時の進み具合で、ずいぶん違ってきます。全国のがん専門病院などが加わる全国がんセンター協議会(全がん協)が公表している数字が参考になります。5年相対生存率、つまり平均的な日本人集団の5年後の生存率と比較した生存率なんです。例えばステージ1だと100%近く治っています。

**Q 2: 手術で人工肛門(ストーマ)、ということも聞けれど、日常生活への影響が心配だね。**

**A 2:** 直腸がんが肛門近くにあり、肛門を切除する必要のある場合に設けます。生活への支障がないとは言えませんが、改良が進み、温泉を楽しむ体験者も増えています。「がんと向き合って生きる社会」づくりには、体験者の生活の質の向上や社会の理解をもっと図る必要がありますね。

**Q 3: 治してもらおう立場からみると、早く見つかるに越したことはないだね。**

**A 3:** その通りです。しかし、検診で「要精検」になっても、精密検査を受ける割合が乳がん検診などに比べて低いのが実情です。日本対がん協会の全国の支部では2017年度に250万人が検診を受け、4千4百人にがんが見つかりました。精密検査を受けた人の4%です。「要精検」になった人の31%(約5万人)は精密検査を受けたかどうか不明です。この5万人が全員精密検査を受けていれば2千人にがんが見つかる計算になります。ただ、精密検査を受けた人の96%には、がんが見つかりませんでした。しかし、わが国で広く用いられている免疫法については、症例対照研究によって、1日法による検診を毎年受診することで大腸がん死亡が60%減ることが報告されています。

※ 国立がん研究センターがん情報サービスのホームページ

【メモ】大腸の壁は5つの層で構成されています。その層のどこまで、がんが達しているか(深達度)、リンパ節に転移しているかどうか、ほかの臓器に転移しているかどうか(遠隔転移)などによって治療法が異なります。

